

報告ダイジェスト

- ・第24回社員総会開催報告 (報告1)
- ・おとなりサンデー報告 (報告2)
- ・勤続表彰 (報告3) シブヤフォント中間報告会 (報告4)

報告1 第24回社員総会開催報告

5月24日（土）、第24回特定非営利活動法人ぱれっと社員総会を開催しました。各事業ごとに2024年度総括、決算、2025年度目標、予算について審議が行なわれ、昨年の総会で承認いただいたとおり、緊急一時保護事業とぱれっとの家いこっとの事業、ならびに住宅確保要配慮者を対象とした居住支援事業については2024年度をもって終了、それに伴う定款の変更も承認されました。

【当日の成立状況】

2025年5月24日現在の正会員数 274名（内訳：A会員141名/B会員125名/マンスリーサポーター8名）

《表決》または《委任》による有効議決参加者126名（※委任、表決両方提出の会員は表決を優先）

《当日出席正会員》 59名 有効議決権合計 185名 過半数により成立

●議事進行の様子

相馬理事長の挨拶の後、定款に沿って今回の総会の成立状況を確認し、正会員田口雄一氏を議長に、相馬理事長、南山事務局長を合わせた3名を議事録署名人に選出し、審議に入りました。冒頭、監事の矢崎芽生さんより、監査報告を行ないました。

今回の議案は、下記のとおりです。

- 1号議案: 法人事務局/広報啓発事業（案）
- 2号議案: 余暇活動支援事業（案）
- 3号議案: 就労支援事業（案）
- 4号議案: 障がいのある人となない人の共同生活支援事業（案）
- 5号議案: グループホーム運営・緊急一時保護事業（案）
- 6号議案: 国際支援事業（案）
- 7号議案: 定款の変更について（案）

今回、私たちがぱれっとが長年手掛けてきた事業について大きな転換期を迎えました。「ぱれっとの家いこっと」は2010年に「障がいのある人となない人がともに暮らす家」として事業を開始、15年にわたって障がいのある人の住まいづくりに取り組んできました。15年間で10名を超える障がいのある人たち、30名を超える一般の社会人がいこっとで暮らし、入所施設やグループホームだけではない新たな形態にも注目が集まりましたが、生活に必要な費用やいざというときの支援体制などの課題もあり、数年間に及ぶ検討の結果グループホームへの転換を決定するに至りました。また、緊急一時保護事業については、再三お知らせしておりますとおり、「家」であるグループホームと同じ空間での実施が難しく、大変残念ではありますが、渋谷区からの事業の受託を断念することとなりました。

（事務局 長 南山達郎）

《2025年度事業目標》

▶法人事務局

- ◆事務局主導で、会計・勤怠・労務のシステ化を進める
 ▶Free会計・Free勤怠Plus・Free人事労務給与の一括導入

▶広報啓発事業

- ◆目的別パンフレットについて検討チームを立ち上げる。
 ▶会員拡大 ▶寄付金獲得 ▶人材募集 ▶事業紹介

▶たまり場ぱれっと

- ◆新規（学生）、運営ボランティアの参加を増やす。◆各活動内容の充実を図る。
 ▶各活動の開催方法の見直し ▶少人数での企画やクラブ活動

▶おかし屋ぱれっと/工房ぱれっと

- ◆安心して作業できる環境を具体化し、運営していく
 ▶作業所の分散 ▶職員体制の構築
 ◆健康的に長く働き続けられるよう、医療面の支援をする
 ▶医療連携体制の導入
 ◆交流や楽しみの機会の実現のため、可能な方法を検討していく
 ▶交流レクリエーションの実施

▶えびす・ぱれっとホーム/しぶや・ぱれっとホーム

- ◆グループホーム2棟の運営安定を図り、入居者の方の安心安全な暮らしを支援していきます。
 ▶いこっとの制度内グループホーム移行と隣接するえびす・ぱれっとホームの全面移転
 ▶えびす・ぱれっとホーム/しぶや・ぱれっとホームの2棟運営
 ◆職員・アルバイトとの連携を図り、支援力を高めていきます
 ▶勉強会・研修会の実施 ▶アルバイトの交流会の企画
 ▶ぱれっととインターナショナル・ジャパン（PIJ）

- ◆ネパールのクッキープロジェクト（就労支援）への協力
 ▶製品のクオリティ維持へのアドバイスなど
 ◆スリランカのグループホーム設立に向けた協力
 ▶2025年8～9月に、スリランカより幹部職員の招聘・研修プログラムを実施予定

【定款の変更について】

旧	新
第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の事業を行なう。 （1）特定非営利活動に係る事業 ①余暇活動を障害のある人たちと共に行う事業 ②障害のある人たちを対象とした就労支援事業 ③障害者総合支援法に基づく障害者福祉サービス事業 ④知的障害者を対象とした緊急一時保護委託事業 ⑤知的障害者を対象とした国際支援事業 ⑥国外の民間非営利活動の関係者との交流とそれらに対する研修事業 ⑦広報、啓発活動事業 ⑧環境の保全を図るための事業 ⑨障がいのある人となない人が共同生活するための事業 ⑩住宅確保要配慮者を対象とした居住支援事業 ⑪その他第3条の目的を達成するために必要な事業	第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の事業を行なう。 （1）特定非営利活動に係る事業 ①余暇活動を障害のある人たちと共に行う事業 ②障害のある人たちを対象とした就労支援事業 ③障害者総合支援法に基づく障害者福祉サービス事業 ④知的障害者を対象とした国際支援事業 ⑤国外の民間非営利活動の関係者との交流とそれらに対する研修事業 ⑥広報、啓発活動事業 ⑦環境の保全を図るための事業 ⑧その他第3条の目的を達成するために必要な事業 ※事業終了、変更に伴い、旧定款から④⑨⑩を削除しました。

報告2 6月第1日曜～渋谷おとなりサンデー初出店～

去る6月1日(日)に「渋谷おとなりサンデー」に初出店しました。おかし屋ぱれっとの店舗にて、たまり場ぱれっとは石けんづくりのワークショップを開催し、おかし屋ぱれっとの商品販売も同時に行ないました。

●おとなりサンデーとは

渋谷区全体で開催されるイベントで、団体ごとに出展内容や時間を決めて自由に実施します。開催日の近くになると街全体の街頭に垂れ幕が掛り彩られていました。発祥は、フランスのパリでご近所さん(おとなりさん)と仲良くなることを目指している「隣人祭り」という行事だそうです。

毎年6月の第1日曜日は、一斉開催日で渋谷全体が会場になります。他の団体では、スポーツの体験会を開催していたり、動物と触れ合える企画があったりと様々なジャンルでイベントが行なわれていました。



「おかし屋ぱれっとの店頭にて販売」

●十人十色の石けんづくり

石けんづくりのワークショップは、例年アースディ東京に出店する際に実施していましたが、今年は違った形での出店となりましたが、ご近所のお子さんやたまり場ぱれっとの利用者を中心に参加してくれました。

簡単な作り方を採用していますが、色や香り、形は人それぞれ好きなものを選んで作ることができます。そのため、完成した石

けんは一つとして同じものはありません。今回は、たまり場ぱれっとの毎月行なっている開放日の活動でも石けんづくりを行ないました。各々が個性的なものを作り自宅に持ち帰ることができました。



「石けんづくりの様子」
好きな色を混ぜて、様々な形で形を作ります。

●おかし屋ぱれっと商品販売

恵比寿駅から徒歩10分ほどにある、おかし屋ぱれっとの店舗は、通常平日のみ営業ですが、今回日曜日にお店を開けたことによって普段は買いに来られない方やご近所さんが声をかけてくれていました。おかし屋ぱれっとのメンバーも店頭立ち、お客様の呼び込みや接客を行ないました。お天気にも恵まれて、気持ちの良い販売会になりました。

●今後のつながり

小さなことでもおとなりさんとのつながりは大事だと改めて感じました。家族だけでは持て余してしまうことや職場の中だけで解決できないことなどをご近所さんとのつながりで乗り越えられます。今回のイベントでもご自宅にたくさんある石けんなどの衛生用品をお持ちくださり、店頭に置いたところすぐに貰い手がたくさんいらっしゃいました。

普段行なっている活動もより多くの方に知ってもらい、おとなりさんを増やしていきたいです。(たまり場ぱれっと 武井琴美)

報告3 おかし屋ぱれっと勤続表彰式

5月24日(土)社員総会の後、おかし屋ぱれっとの勤続表彰式を行ないました。今年は勤続10年を迎えた村上あいさんが表彰されました。

村上さんは1年前から「来年は勤続表彰だ…頑張らなくちゃ!」と張り切っている様子が見られました。「後輩も増えてきて、自分が他のメンバーのサポートをして仕事のやり方などを教えるんだ」と普段からよく話しており、表彰式でも「みんなと協力してクッキー作りやケーキ作りなどをしていきたいです。今後はヤギミルククッキーやグリッシーニ、すこーんなどもできるようになりたいです」とスピーチしていました。その言葉通り、成形が難しい菓子にもとても意欲的に取り組んでいます。少しずつ先輩メンバーや職員と一緒に挑戦して、上達していつか姿を頼もしく感じています。



【左から、お母さん、親の会会長田代さん、所長玉井、村上あいさん、主任井上】

(おかし屋ぱれっと 井上 ムハンマド)

報告4 シブヤフォント中間報告会

6月18日(水)、今年のシブヤフォントの取組の振り返り地点となる中間報告会が桑沢デザイン研究所で行なわれました。シブヤフォントは、障がいのある人の描いた原画をもとに、デザインを学ぶ学生がフォント(文字)やパターン(柄)にアレンジしたデータです。製作過程は、渋谷区内各事業所と1~2名の学生がチームを組み、事業所訪問から原画製作、データの完成まで約4ヶ月間の実践を伴う授業となっています。ぱれっとチームは今年、文具デザインの社会人経験もある学生の孟さんと一緒に取組を進めています。

今回は「素材であそぶ」をテーマに、ゲル状の絵の具に指で痕を付けたり、布地と糸で描いたり、棒の先にわたを付けたものを大きな紙に叩きつけたり、これまでやっていた描画(ペンや色鉛筆)から一旦離れて、様々な素材や方法を試しています。中間報告会ではそんな取組の過程と、仮で組んでみたパターンやフォント、そのデータを使った商品展開案などを学生から発表します。教室は他のチームの発表や、ゲストであるプロのデザイナーからのアドバイスを一言も聞き漏らしたくないという熱気に包まれ、充実した時間はあっという間に過ぎていきます。この報告会を経て、チームで更に方向性を検討し完成に向けてブラッシュアップしていきま



【今年の製作の様子】

す。完成をどうぞお楽しみに!(工房ぱれっと 玉井七恵)